



北高夢ロード通信

第2号 (2018.3)

豊かなる 緑の里に 新たなる 学び舎は立つ

山口県立豊北・下関北高等学校

校長 竹村和之

北高夢ロード実行委員会の皆様には、平素から、本校教育に多大なご支援・ご協力を賜り、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

恵み豊かな豊北の自然。そのそこかしこに新たな生命の息吹を感じ始める3月1日に、44名の若人が学舎を巣立って行きました。そして、4月には、山口県立下関北高等学校が新たな歴史を刻み始めます。

新高校は、響・豊北両校の歴史と伝統を継承しながら、下関市の北部唯一の普通科高校として、生徒やその保護者、地域の皆様の期待を一身に背負い、また、その期待に応える学校にならなければなりません。

生徒の人格の完成や希望進路の実現、その基盤となる学びや学校生活の充実といった学校が本来有する教育的使命とともに、社会の有為の形成者を育成するという社会的使命を有する高校にあって、とりわけ、少子化、人口減少・流出が進むこの地に誕生する新高校については、学校の存続が地域の存続に直結しています。子育て世代の若者が、積極的にふるさとに戻り、安心して子育てをしながら暮らしていけるよう学校の存続を第一の使命として掲げながら、学校が中心となって創り

出す地域社会という新しい発想で学校づくりを進めていく必要があります。

このため、新高校では、幅広い学力や進路希望等に対応する教育システムを充実させながら、地域の皆様の声を学校運営に反映する仕組みを整え、地域と協働した様々な活動を展開していくこととしています。

こうした地域と連携した取組は、生徒の豊かな心を育むとともに、下関北高校を地域に存在感のあるかけがえのない高校とすることでしよう。

北高夢ロード実行委員会におかれては、これまでも、会発足の契機となった傘の貸出事業をはじめ、文化祭での企画「ようこそ先輩」や「アートの本棚」など、多大なご尽力をいただいているところであり、今年度は新たに、歴史講演会やホテル観察会、滝部・川棚で実施した街あるき「通学のまちのよみがえり」、さらには「先輩の本棚」など、その取組も年々充実しています。学校も積極的に報道機関等に情報発信し、教育活動の充実はもとより、学校のPR活動に無くてはならない存在となっています。

活動の充実を通して、日常的な生徒とのふれあいも増えてきているようで、高校と地域が協働した姿として全国に発信したいと考えています。

新高校と地域をつなぐ中核となる組織として、引き続き温かいご支援を賜りますようお願いを申し上げます。

通学のまちのよみがえり バック・トゥ・ザ・フューチャー

赤間関街道 滝部・川棚 プラタモリ

北高夢ロード実行委員会会長 岡崎新太郎

2017年8月19日(日)滝部太陽館周辺・8月20日(日)川棚温泉コルトーホール周辺で上記のテーマで街歩きをしました。テーマが示す通り過去の遺産を知り、それを未来に生かす。テレビに放映されている人気番組「プラタモリ」に倣っての企画です。タモリ役を九大大学院の藤原恵洋先生に務めていただきました。九大藤原教室からは4名の参加。豊北高校・響高校の生徒の皆さん、校長・教頭先生の参加をいただき、やっと「北高夢ロード」の「北高」の部分が本物に一歩近づいたと、両校に感謝する次第です。北高生10名、響高校生3名が参加しました。波多野氏の友人の遠隔地からの参加を含め19日27名、20日25名が参加総数です。

19日太陽館では、39年度卒業の尾野君、城石君の昔の通学路での体験、往時の滝部駅の賑わい、未来に向けての提言。樋口君提案の町の資料展示、カンカン部隊、浜出祭の映像など懐かしい記憶を呼び覚ましました。街歩きでは滝部診療所の衛藤泉先生の「この町の自然と美しさを保持してきたのは今ここで生活をしている年配の方々の知恵による」という高校生への呼びかけが印象的でした。



街歩き：滝部診療所の衛藤泉先生のお話

20日はコルトーホールの上田・村上両氏の万全の準備に支えられ、街の歴史の見方など高校生にも知的興味を引き起こす会となりました。

高校生にとってちょっとお姉さんの世代に当たる藤井優子さんが老舗の玉椿旅館を支え、健闘されている姿は印象深かったようです。

両日のイベントの後半にセットされた街歩きの振り返りの時間は、街の現状への危機感まちづくりへの提言、教育の問題、北高夢ロードへの期待と提言など多岐にわたりましたが、高校生達が大人の議論を聞くチャンスであったこと、自分たちも自分たちなりに議論に参加しようとする姿勢が頼もしく感じられました。

豊北高校・響高校が下関北高に引き継がれてゆく節目の時期、滝部と川棚温泉での街歩きが実現したことをよきこととして、運営上の改善点を明記して次に引き継ぎたいと存じます。

改めて豊北・響高校生徒・校長・教頭先生、参加された地域の方々、資料提供をいただいたの方々、太陽館、コルトーホールのスタッフの方々に感謝をいたします。



街歩き：湯治向け宿で栄えた昔の川棚温泉

今後の街歩き開催のために

今回の街歩きを計画立案した者としての反省事項を今後同じような企画をする場合の参考となるように箇条書きにして書き留め、会員諸氏のご理解をいただきたい。

1. 主たる計画参加者は少なくとも一年くらい前から合同協議を開始すること。今回に即していえば、豊北高校、響高校、九大藤原教室、コルトーホール、北高夢ロード実行委員会5者の協議を一年前から始める必要がある。そのためには、さらにその半年前から北高夢ロード実行委員会が主たる参加団体に声をかけることになる。またそのためには、その半年前から北高夢ロード実行委員会内部での検討を始めておかなければならない。都合、2年前から企画は動き始めていなければならないということである。

2. 街歩きであるから、当然、街の人、各団体等への協力依頼、企画参加の呼びかけをすることになる。特に協力依頼はお願いする団体の年間計画に組み込んでいただくために、1年くらい前が望ましい。以上の1、2から企画自体は単年度の企画として年度総会で決定して動き出すのでは時間的な無理が生ずる。企画実行2年前の総会で細部はさておき、実行決議はしておくべきである。

3. 企画のための財源のことであるが、音楽、演劇のイベントのように入場料をいただいて運営する性質のものではない、むしろ参加者の方々に多大の労力、負担をお願いすることになる。よって自主財源か、諸団体の助成金申請に応募して、資金を交付してもらうことになる。そのための、企画検討、書類の作成はそれなりのスキルを必要とする。北高夢ロード実行委員会の会員の数名がそれに携わることができるように、常時チームを組んでお

くことが望ましい。そうすると会自体の運営、外への働きかけも良い方向に向かうだろう。

4. 動かないものと、動くものを関連付けるのは簡単なことではない。今回の企画の表題は「バック・トゥ・ザ・フューチャー」であった。バック＝過去＝動かないもの、フューチャー＝未来＝動くもの、とすると、過去だけを展示することはそれなりの工夫は必要であるが、そこに集中すれば、できる。未来だけを語る座談会であれば、それなりに楽しく夢を語り合うことができる。しかし、それを結び付けることは簡単ではない。どこか未消化な印象、物足りなさが残る。企画への知恵の積み重ね、経験があって初めて良いものになる。その意味で、何年かおきで「街歩き企画」の積み重ねをしないと本物にならないのではないだろうか。企画責任者として、終わった段階で、ああすればよかった、こうすればよかった、あれは大失敗だった、参加者に申し訳なかったと思うことが、大きなこと、小さなこと多々ある。それを、生かすためには継続することだろうと思う。

5. 街の人、市民、生徒、各機関との日常的なかかわり、友好関係が「街歩き」企画の土台となる。その意味で、北高夢ロード実行委員会の新しい姿への脱皮への努力を続けてゆきたい。

6. 下関北高がコミュニティ・スクールとして多くの課題を抱える地域の活性化の中心となり、地域が下関北高の発展を支えるという双方向の働きかけの端緒となったと弱点を自覚しつつ、しかし、肯定的にみなしたい。参加された高校生・市民(特に遠方からの参加者)、こまごまとした仕事をやっていただいた夢ロードの会員の方々に心からの感謝をいたします。(岡崎新太郎)

(構成・写真提供：古田雅士：2014年東京より豊北町和久に移住、現在豊北町阿川に在住)

「先輩の本棚」事業 初年度報告

2017年度、本会が仲介して豊北高校卒業生にその著作物の寄贈を呼びかける事業を開始しました。著作者には依頼状とともに「メッセージカード」をお送りし、ご自身のプロフィールや在校生への一言を記していただきました。このカードを挟んだ本は、北高図書室で一般の書棚とは別に「先輩の本棚」として公開されています。

これに先立ち、11月7日(火)～11月21日(火)、校長竹村先生の主導と、教頭土井先生、司書教諭でもある吉田先生のご協力のもと、下関市立豊北図書室(豊北中学校内)で展示会が開かれました。展示には、図書委員の生徒4名が夏休み中にこれらの本を読んだ感想を書店のポップ風を書いて飾りつけてくれました。(p.6写真参照)

今回は試行的な意味合いもあり、おおむね1958～67年の卒業生のうち著作をお持ちと思われる卒業生について、国立国会図書館や下関市立図書館の蔵書などで調査したうえで依頼し、下記8名の方から計75冊をご寄贈いただきました。(敬称略 卒業年度・五十音順)

木本信昭(1958)、末永清(1958)、中原(旧姓:石田)忠男(1962)、大石(旧姓:中嶋)良夫(1964)、西嶋勝之(1964)、波多野宏之(1964)、樋口州男(1964)、古澤隆人(1968)

2018年度には対象を広げて依頼する予定です。調査は悉皆調査ではありませんので、もし、お心当たりの方がおられましたら、下記担当者宛てにご連絡いただければ幸いです。

なお、寄贈資料一覧や、この事業および展示会を紹介した新聞記事情報などは、本会のWebサイト(<http://yumeroad.org>)の「活動報告」のページをご参照ください。

(担当/連絡先: 波多野宏之

E-mail: kitakoyumeroad@gmail.com)

「風と共に去りぬ」

中原忠男

私は映画が好きで、標題の映画は高3のときに観たものです。当時の国立大学入試は九大などの1期校と山大などの2期校とに分けられていて、受験のチャンスは2回あるが1期校によい大学が集中していた。その受験が出来ず、下関駅を降りて目にしたのが、この映画の看板でした。自分のその時の心境に近く、面白いタイトルだったので、内容は知らないまま映画館に入った。M. ミッチェルの有名な小説を映画化したものなので、原作を読まれた方や映画を観られた方も多いかと思う。

南北戦争という大風が吹き荒れる中で、アメリカ南部の富豪の娘スカーレットが何度も挫折感を味わいながらも逞しく生き抜く姿を描いたものであった。その映画で最も心に残ったシーンが、財産や恋人を失ったスカーレットが故郷のタラを思い出し、そこに帰って再出発しようと決意する場面でした。

これで気分転換ができ、2期校には何とか合格した。その後大学院も修了して、大学教員としての職を得ることができた。好きな研究ができ、それを論文にしたり、本として出版したりして、その中の数10冊を幸い「先輩の本棚」に寄贈できた。

私の故郷は豊北町ですし、北高です。長いこれまでの人生でいろいろな風に見舞われたけれども、節目の時に故郷を訪れて元気をもらった。田耕の五千原から見た白滝山の山頂に風力発電機が設置されていたのには時代の流れを感じたけれども、今の私があるのはまさしくこの故郷によるものです。

(旧姓石田 1962年卒、元広島大学教育学部長、元日本数学教育学会長)

2017年度の活動報告（続）

通学のまちのよみがえり

バック・トゥ・ザ・フューチャー

8月19（土）、20日（日）滝部と川棚温泉において開催されました。（p.2-3 参照）

谷ロジローとフランスのBD（ペー・テー）

10月27日（金）～11月9日（木）の読書週間に、豊北高校図書室において＜アートの本棚＞展示を標記のタイトルで開催。フランス語に翻訳した作品を含め図書26冊、新聞記事など参考資料7点を展示しました。



（写真提供：豊北高校）

公民館まつりに参加

10月29日（日）滝部公民館（太陽館）まつりに参加しました。会としては2回目。岡崎会長がパネル等を使い、会の設立経緯・現状等を報告しました。会の紹介パンフレットを作成・頒布する必要が痛感されました。



（写真提供：古田雅士氏）

「先輩の本棚」展示会

11月7日（火）～11月21日（火）

下関市立豊北区書室で開催されました。

（p.4 参照）



豊北高校図書委員の生徒による手作りのポップ

クリスマス 朗読とワークショップ

12月24日（日）14時～16時30分

滝部公民館（太陽館）において、下関リーディングの会との共催で開催されました。朗読と演劇は、「ゼロ弾きのゴーシュ」（写真）。その後、出席者30余名全員が3組に分かれ、台本を手にして朗読に挑戦しました。



（写真提供：古田雅士氏）

北高生とまちづくり協議会

恒富英雄

私はUターンで30歳から65歳まで滝部から下関商工会議所まで往復90kmを車で通勤したため、町内には人脈がなく、豊北町・商工会がなぜ動かないのか疑問に思う事を解明したく「まち協」に応募したところ、無職(11人中2人)のため否応なしに活性化部会長に選出されました。これを契機に疑問を事業に変え活動を開始することになります。

今回は下関北高祝意に協賛頂いた各位に本誌が配布されると聞き町の現状を紹介します。

人口は昭和の合併で豊北町になった昭和30年(1955)28,148人、50年経過した平成17年(2005)11,996人、平成29年(2017)9,280人です。人口ピラミッドを描けば60~74歳が32%を占め一番の問題は年間誕生が10人前後、喧嘩コマの極細心形です。私が卒業した昭和38年頃は滝部駅から北高までの通学路に約100事業所ありましたが、今では30程度、食品スーパーは町内では滝部に小さな1店のみ過疎スパイラルの現状です。高齢化率は平成30年1月9,146人うち65歳以上4,736人、率52%は限界集落ならぬ藻谷浩介氏いわく高齢化先進地で長いトンネルの出口におり、後ろには首都圏が入り口付近で追従している状況だそうです。

この環境で住民自治による「まちづくり」を目指し、平成28年度6月豊北地区まちづくり協議会は「企画・活性化・安心安全・教育子育て」4部会を立ち上げました。

我が活性化部会は格好よく言えばサミエル・ウルマン「青春」気分です。2年連続で観光客が100万人超の観光振興と雇用創出の芽を追い求め28年度事業は、観光客は景観に癒しを求め来町すると想定して案内広告・案内標識が国定公園法・市条例に適・不適か調

査したが年々酷くなり行政に改善要望書を提出。また簡易宿泊施設の設置・雇用開発を目的に旧角島中学校の活用を地元代表と意見交換をしたが角島モンロー主義に阻まれる。29年度事業はGWに阿川海浜公園で開催したフリーマーケットは快晴に恵まれ出店ブース81が埋まり0円から800万円の新大型トラックターまで揃い家族連れが多く盛況でした。

豊北町では観光客動向実態調査は未着手、また市民参加の活性化ワークショップ(以下、WS)も未開催なので、下関市立大学附属地域共創センター長濱田教授に両事業についてご指導・支援をお願いに行き即決快諾です。若い菅准教授が担当になられ、ゼミの学生19名も調査に参加が決まり人手不足解消と大安心をしました。

ところが、夏期8月、秋期10月の2回の調査実施日が台風の影響で順延、学生は帰省や不都合で少人数となり、急遽先生方は無論、ボランティアに助けられ390件の調査を完了。2月3日土曜日、調査報告会を滝部自治会館で開催。この場にも土井教頭先生に引率され生徒会7名が参加し鋭い質問を連発するなど今や地域に欠かせない豊北高校です。

また、会が終了すれば生徒は率先し会場を片付けるなどエールを送りたくになります。

9月第1回活性化WS「無いもの探しよりある物探し」は20代から70代まで男女半々、北高は「地域に根ざす高校」を目指し校長・教頭先生が生徒会7名を引率され出席され合計43名参加の豊北町ではかつてない活発なWS(総合支所長談)となり6名の各班長が堂々と取りまとめた活性化案を発表され豊北町も捨てたものではないと強く感じました。生徒会長は高校生が考える豊北町の将来像を澁刺と発表し、参加者全員に明るい未来を感じさせ感動を与えました。

(豊北地区まちづくり協議会活性化部会長)

TAKIBE, run straight to the future!

図書・読書によるまちおこしを

我妻 滋夫

はじめに

今度波多野宏之氏が「アートの本棚」という小さな文庫を笹尾商店内につくったという。そこに、私の母が通い集めた日本画関係 200冊ほどの「展覧会図録」をおいてくれることになった。ありがたいことである。

夏にイベントがあると聞いていたので、お礼を兼ねて滝部に行くことにした。

「アートの本棚」に期待する

波多野氏に笹尾商店をご案内いただく。

元就公の御台所様のような波多野氏の叔母様が居住まい端正にして奥ゆかしく三つ指ついてご挨拶いただき、なんとも歴史の空間にいざなわれるような至福のひと時を味あわせていただいた。

母の蔵書は文庫のコーナーの一角を占めていた。白い丸テーブルを美術関係の本棚が囲み、外からもよく見え、温かな雰囲気を出していた。母の本はこんなにも日当たりのよい場所に移り、美術好きの人たちに利用されると思うと嬉しいかぎりだった。

この通りは高校生の通学路だそうで、この「アートの本棚」が有効に利用され、まちづくりに貢献することを望みながら、イベントの会場の方へ向かうことにした。

「通学のまちのよみがえり バック・トゥ・ザ・フューチャー」(8月19~20日)

実は、イベントについては枯れ木も山のにぎわい程度にしか考えておらず、聞いていればいい、ぐらゐの気持ちでいたのだが、イベントの中身はというと大変濃いものであった。しかも地元の高校生まで参加していたのは驚きだった。未来は明るい。

「滝部駅から高校までの通学路はかつてはお店が立ち並びそれは賑わいを見せていた」

ときいた。なるほど、いましがた歩いた道はにぎわっているとはいえなかった。それを取り戻そうというのが、今回のまちの有志の決意イベントだったのである。

図書館によるまちづくりの動き

今回ここに来る前に呑み旅をしてきた隠岐の島に触れたい。隠岐の島のうち中の島は島全部が海士町あまちょうとなっている。その町長が「島まるごと図書館構想」というものを掲げ、2007年度より人づくりの推進に取組み、中でも「読書活動」を重点施策に位置づけている。島の学校を中心に地区公民館や港など人が集まる既存の公共施設を図書分館と位置づけ、ネットワーク化することで島全体を一つの「図書館」とする構想だ。そして2010年には念願の図書館が開館し、2014年には「ライブラリーオブザイヤー賞」を受賞している。

また、人口減による島唯一の高校が存続の危機にさらされたとき、「島留学」制度を設け補助制度も整え島外からの志願者数を上げて廃校を免れたという。ほかに子育て支援や漁業についても支援を充実してまちの活性化につなげているようだ。

本と読書をめぐるまちおこし

海士町は図書館がまちづくりに積極的にかかわっているが、同様の事例はほかにもたくさんある。自治体自身が図書館の集客力に目をつけ、町の活性化につなげようとするものだ。事実、人口動線の集まるところに建てた図書館は驚くほど利用されるということがわかっている。(日本図書館協会調べ)このような集客力を持つ図書館をまちづくりに利用しない手はないだろう。自治体が運営する図書館がある、一方で住民がまち中に読書交流の場をつくる。それらが相協力し合って人と人の交流をつくっていく、そういう流れもある。まちおこしには本・読書を通した活動も有効なのである。(元日本図書館協会事務局)

平成 30 年度

総会・懇談会のご案内

北高夢ロード実行委員会会員の皆様

日頃、会の運営にご支援・ご協力をいただきありがとうございます。

平成 30 年度北高夢ロード実行委員会総会・懇談会を下記の要領で開催いたしますので、ご多忙中とは存じますが、ご出席くださいますようお願い申し上げます。なお、ご出席の有無等同封のはがきにご記入のうえ、4 月 20 日（金）までに届くようにご投函ください。

会長 岡崎新太郎

記

日時：2018 年 4 月 26 日（木）

場所：滝部公民館(太陽館) 講義室

下関市豊北町滝部 3397-12

電話：083-782-1296

スケジュール：

15:00-16:30 懇談会

下関北高開校 通学路の昔と今とこれから

遅まきながら、駅前、下市、上市、久森の各自治会長さんほか自治会の皆さんと夢ロードのメンバーが初めて親しく向き合って話す機会です。

16:30-18:00 総会

主な議題

平成 29 年度事業報告・決算報告

平成 30 年度事業計画・予算案

会則改正および役員補充

18:00-20:00 懇親会（和室）

参加費

（弁当代 500 円は当日お受けします。）

電話 080-5230-6032 岡崎携帯

下関北高等学校開校祝意幕

2018 年 4 月 9 日開校式を迎える下関北高開校を祝うため、本会では、豊北高校同窓会、同関東支部、市役所北高会、豊北自治会連合会、滝部地区連合自治会に呼びかけ、合同で祝意の横幕を滝部駅から豊北・下関北高校までの通りなどに、大型懸垂幕を下関市役所豊北総合支所に 4 月中掲げる予定です。また、4 月 1 日、7 年毎に行われる浜出祭の行列が通る中通りに集中掲示します。

やまぐち教育応援団

2018 年 1 月 12 日、本会が「やまぐち教育応援団」に認証・登録されました。「応援団」は社会全体による教育を推進するため、山口県教育委員会が運営する認証・登録システムです。本会では、これにより広くイベントの開催や講師派遣などを通じて、豊北・下関北高校、豊北中学などの教育を応援します。



北高夢ロード通信 第 2 号（年 2 回刊）

2018 年 3 月 20 日発行

編集：会報編集委員会(恒富・波多野・古田)

発行：北高夢ロード実行委員会

〒759-5511

山口県下関市豊北町滝部 856-9

Tel: 083-252-6032

ホームページ：http://yumeroad.org

E-mail: kitakoyumeroad@gmail.com